

CSR Report 2013

日本特殊陶業グループ CSR報告書 [ダイジェスト版]



NGK **NTK**
スパークプラグ ニューセラミック

日本特殊陶業

TOP MESSAGE

日本特殊陶業株式会社
代表取締役社長 社長執行役員

尾堂 真一

2013年9月



日特進化論 深化から新化へ

日本特殊陶業グループは、中期経営計画「日特進化論」を策定し、2020年のあるべき姿として「ものづくり企業」「高収益率企業」「発展的企業」「人“財”企業」であることを掲げています。その実現のためのプロセスとして3年ごとに「深化」「新化」「進化」と3つのステップを着実に上がっていき、最終的には当社すべてのステークホルダーに対して真の価値「真価（Real Value）」をお届けできる企業像を目指しています。2013年3月で現業の掘り下げと新ビジネスの種まきである「深化」が終わり、4月より第2のステップである「新化」が始まっています。

この「新化」は、新しく生まれ変わるための準備期間です。最後のステップである「進化」に向けた基盤づくりとして、経営資源を最大限に活用し、新しい事業領域や分野に果敢にチャレンジしていきます。

新化元年

私は自分の社長としての使命は、「“日特革新”へのチャレンジ」だと常々申し上げてきまし

た。チャレンジする以上はリスクがついて回るのですが、変わることにリスクを恐れ、変革を求めないことが最大のリスクだと思っています。グローバル・スピード・フェアをモットーとし、全従業員が一丸となって「変わらなければならない」という意識を共有し、引き続き「事業構造の改革」を推進していきます。

海外拠点の多い当社にとってグローバル経営の仕組みづくりと強化は必要不可欠ですが、すべての活動の基盤となるのは人材です。経営管理本部の力を結集して、グローバルな視点を持った人材の育成や現地における有能な人材登用に柔軟に対応できるよう人事制度の改革やグループ全体を統括した経営情報ネットワークの充実を進めています。また、生産技術本部においては現場力と、ものづくりの心の継承を目的として、ものづくりセンターを設置しました。

自動車関連事業において、プラグやセンサーで世界No.1シェアを持つ当社は、同時に製品の安定供給という社会的な責任も認識しなければなりません。世界No.1メーカーであり続けるため、強い自動車関連事業をより強くしていくことが重

要です。新興市場におけるモータリゼーションは急加速しており、中国市場では現地のニーズに応えた中国専用のプラグとして「NGK CX 烈焰^{れつえん}プラグ」の導入など、さらなる市場拡大に向けたチャレンジを行っています。

情報通信関連事業とセラミック関連事業では、新たにテクニカルセラミックス関連事業として組織を一体化し、事業の再編とそれに伴うリソースの最適配置を図っていきます。また、オーガニックICパッケージの生産では海外および国内のパートナーに移管を進め、開発・設計に特化したファブレス^{*}化による新しいビジネスモデルへの転換を図ります。

新規事業に関しましては、社会やお客様のニーズを掴みながら、環境・エネルギー・EV関連分野等でのイノベーションを促進し、新規事業推進本部とSOFC^{*}プロジェクトを中心として新規商品開発に力を注ぎます。

私たちは「人」「組織」「ビジネス」を変革していき、「新化」の3年を契りある年にしていきます。

CSR^{*}経営の推進

当社グループの活動基盤を強化するため、コンプライアンス^{*}やリスクマネジメント^{*}の再点検・整備を行っています。また、「CSR調達^{*}ガイドライン」をお取引先へ展開し、CSRの取り組みをサプライチェーン全体で推進することを宣言しました。

ものづくりに携わる企業であれば、社会の期待に応えた、人と地球に優しい製品の開発はもちろんのこと、原材料調達から出荷までのバリューチェーン全体における、ものづくりのすべてにおいて地球環境保全活動は必須と考えています。私たちはエコビジョン2015で定めた目標を達

成するため、CO₂排出量や水使用量の削減はもちろんのこと、廃棄物処理や化学物質の管理などに真摯に取り組みます。

企業としての存在価値を高めるためには、本業において社会のニーズや課題を捉えたものづくりで貢献することは当然ですが、企業市民として「雇用」を生み出すことも社会的責任、社会貢献の一つであると考えています。ものづくりの面では、日本は決してベストな環境ではありませんが、長期的な視点では、当社がグローバル企業として勝ち残っていくためには、『日本でしかできないものづくり』をいかに残していくかがポイントとなります。こうした観点から、日本で生み出す品質の高付加価値化を通じて、労働力の質を高めていくことで、質の高い雇用の創出につなげていきます。

ダイバーシティ^{*}にも積極的に取り組みます。日本の労働人口を見ると、女性の活躍がなければ日本の将来がないことは確実で、この取り組みはしっかり進めていきたいと思っています。まずは女性の活躍推進から活動をスタートしますがこれは“企業風土改革”のひとつのきっかけに過ぎません。当社のさらなる成長のために、性別・国籍・年齢・障がいの有無を問わず、やる気のある人を積極的に登用していきたいと考えています。

私たちはステークホルダーとのコミュニケーションの重要性を認識し、世の中の動向を正しく把握してCSR委員会や専門委員会などで活発な議論を行い、課題を見極めて総員参加のもとで持続可能な社会への責任を果たしていきます。

この度、2012年度の活動をまとめた『CSR報告書2013』を発行いたします。

皆さまの忌憚ないご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

新・中期経営計画の全体像



私たちの企業理念は3つの要素で構成されています。



経営姿勢

社員の個性と能力を活かす環境を整え、総力を結集して信頼に基づく経営を行います。

個性と能力の尊重

健全な発展のために、社員の個性と能力を最大限に活かす環境を整えます。優れた環境は、最も重要な独創技術を生み出すと同時に、豊かな人間形成を育む源泉でもあります。

総力の結集

一人ひとりの活動を有機的に結び付け、戦略経営を心掛けます。

信頼に基づく経営

日本特殊陶業は創業以来、多くの人々に支えられてきました。お客様をはじめ、当社と関わりのある全ての人からの信頼が、私たちの貴重な財産です。これからも、一歩先の時代を読み、誠実な経営でさらに信頼を深めていきます。

存在意義

最善の技術と蓄積した経験を活かし、世界の人々に新たな価値を提案します。

社会への貢献

時代が要請する新たな価値を、優れた品質とともに人々に提供することが、私たちの使命です。

グローバルな企業活動

グローバルな企業活動を通じて、世界の人々に愛され、親しまれる企業となります。

技術立脚の提案型企業

独創的な商品をいち早く開発・提案し続けるリーディング・カンパニーでありたいと願っています。これからも、セラミックで蓄積した経験を活かし、新たな分野に挑戦します。

行動指針

絶えず前進します！
何がベストなのかを常に考え、スピーディーに行動します。

絶えず前進

現状に満足することなく、常に新しい目標に向かってチャレンジします。絶えず前進する積極的な姿勢こそが私たちの活力であると確信します。

ベストをめざす

何がベストであるかを常に考え、自らを発展向上させます。

スピーディーな行動

的確な判断と素早い行動で、変化に対応します。

スローガン

私たちは、相互信頼を深め、未来を見つめた新たな価値を提案し、世界の人々に貢献します。

主要製品

自動車関連事業



スパークプラグ イリジウムプラグ



グロープラグ



ジルコニア酸素センサ



二輪車用小型
ジルコニア酸素センサ



広範囲排気温度センサ

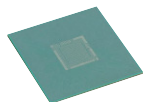


ロックセンサ

テクニカルセラミックス関連事業



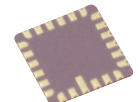
水晶デバイス・
SAWフィルタ用パッケージ



オーガニック
ICパッケージ



ウェハーテスター用
大型基板



カメラモジュール用
パッケージ



LED照明用パッケージ



高周波用パッケージ



セラミック工具



SSバイト



スローアウエイドリル



フライスカッター



パイオセラミックス



医療用尿素濃縮器



静電チャック



真空スイッチ容器



ベアリング用ボール



誘電体共振器



セラミックヒータ



超音波振動子

CONTENTS

NGK SPARK PLUG Group CSR Report 2013

トップメッセージ	1
■ 企業理念	3
【特集01】モータースポーツとともに	5
【特集02】無鉛圧電セラミックスの開発	7
【特集03】見えないところで活躍する製品群	9
■ 日本特殊陶業グループのCSR	12
■ お客様とともに	13
■ 株主・投資家の皆さまとともに	15
■ お取引先とともに	16
■ 従業員とともに	17
■ 地域社会・国際社会とともに	21
■ 環境を守るために	23
■ コンプライアンス	27
■ リスクマネジメント	28
会社概要、用語解説	29

編集方針

『CSR報告書2013』ダイジェスト版は、さまざまなステークホルダーの皆さまに、日本特殊陶業グループのCSR活動を知っていただきたいの想いを持って編集しています。

ウェブサイト版
定常的な取り組み

ダイジェスト版
2012年度のハイライト

ダイジェスト版ではハイライトを中心に報告しています。

詳細な情報はウェブサイト版をご覧ください。

<http://www.ngkntk.co.jp/csr/>

*がついた用語の解説は、P.30をご覧ください。

01 モータースポーツとともに

当社の主力製品であるNGKスパークプラグは、エンジン性能を大きく左右する重要な機能部品の一つです。当社は長年にわたりモータースポーツの分野にも高品質なスパークプラグを供給してきました。これからもプラグのトップブランドとしての責任を果たしながら、モータースポーツ、ひいては車社会のさらなる信頼と発展に貢献していきます。

F1プラグの技術開発

世界最高峰の自動車レースであるF1 (Formula One) は、単にF1マシンやエンジンの特性を争うものではありません。安全性や環境問題などを考慮した厳しいテクニカルレギュレーション (技術規約) のもとで、マシン、ドライバー、チームの総合力を公平に競うスポーツです。そして、F1で培われたさまざまな工夫や技術革新は、後の車技術、車社会の発展に大きく貢献してきました。

スパーク
プラグレーシング
プラグ

F1マシンやエンジン性能の向上を目指す中で、F1エンジン用スパークプラグにも最先端の技術と工夫が駆使されています。例えば、エンジン設計レイアウトの自由度を高めるためにはプラグの小型・細径化が求められる、その一方で高負荷の続く過酷なレース環境に耐え抜くための耐熱性・耐振動性を確保する必要があります。そのため、何がベストなのかを常に考え、新しい目標に向かってチャレンジし続けてきました。1964年のF1レースへのプラグ供給開始以来、当社のプラグが多くのチームで使用されてきたのもその証といえます。

また、F1マシンやエンジンの技術開発はシーズン中も1戦ごとに絶え間なく行われることから、当社ではプラグに求められるニーズに的確に応えるため、欧州テクニカルセンターと日本の技術担当者が日々連携し技術サポートに努めています。



こうした対応の積み重ねにより、今年3月に行われたF1マレーシアグランプリにて、当社レーシングプラグ搭載のF1マシンによる通算300勝を達成しました。その他、WRCやSUPER GT等の四輪、MotoGPやスーパーバイク世界選手権等の二輪、そしてスノーモビルに至るまでさまざまなカテゴリーで当社のスパークプラグが活躍しています。



voice

プラグ事業部 技術部
植田 知晃

エンジンメーカーからの要望を受け、レース用プラグの企画・開発・設計を行っています。F1エンジンをはじめ、近年のレース用エンジンにはパワーだけではなく、限られた燃料をいかに有効に燃やし、パワーと燃費の良さを両立するかが求められています。モータースポーツという最先端の開発から得られた技術を製品にフィードバックしていきます。



voice

ナカジマレーシング総監督
中嶋 悟 様

現在私はナカジマレーシングの総監督としてレースに関わっていますが、私の現役時代から現在まで、NGKスパークプラグは私たちのチームの必需品です。NGKの赤いマークをレース会場で拝見すると、いつも頼もしく感じています。今後も優れた製品を提供し続けて欲しいと思います。



マン島TT (ツアリスト・トロフィー) レース

英国伝統のオートバイレースであるマン島TTレースで、当社のプラグを装着したチームが活躍したことにより、NGKスパークプラグのブランドが世界に広がりました。

イベント活動

当社は、モータースポーツ会場や展示会などでブース出展や協賛を行っています。その中で、プラグ交換体験や製品紹介、そしてマスコットのスパークガールズによるゲーム大会など、プラグユーザーの方やご来場いただいた皆さまがモータースポーツをより身近に感じ、交換部品への興味や知識を高めていただけるよう、楽しい空間をお届けしています。

また、当社がスポンサーとして協賛するNGK杯（鈴鹿サンデーロードレース最終戦）は、国内最高峰の全日本ロードレースへの昇格を目指して、ビギナーからベテランまで幾多の精鋭が腕を磨くことから、全日本ロードレース選手権をはじめ世界を目指すライダーの登竜門となっています。

このようなイベントや協賛活動を通じて、モータースポーツの発展と振興に貢献しています。



voice

営業本部 市販部
中尾 寛

日本各地のレース場で開催される全日本選手権などの各種レースの現場に出向き、NGKスパークプラグのユーザーに、プラグに関するサービスを行っています。夏は8耐、秋はF1やMotoGP、冬はスノーモビルと、プラグが使われる現場でNGKスパークプラグのブランドイメージを高めるべく、週末のレース場で活動を行っています。



プラグ交換体験イベント

voice

鈴鹿8時間耐久ロードレース
イベントブースへのご来場者

- プラグの放電を間近で見られてよかった（男性）
- 予想以上にプラグ交換には力が必要だと分かった（男性）
- 子どもも楽しめるイベントで嬉しい（女性）

02 無鉛圧電セラミックスの開発

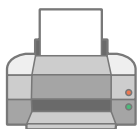
私たちの身近な生活機器の中で広く利用されている圧電セラミックス。しかし、その材料には鉛が含まれることから、使用済み機器から環境中に鉛が溶け出す恐れがあり、鉛を含まない材料の開発が課題となっていました。そこで当社は、鉛を含まず、同等の特性を持つ圧電セラミックスを開発しました。

圧電セラミックスとは

圧電セラミックスは、外部から力を加えると電圧を発生します。逆に、電圧を加えると伸びたり縮んだりする性質があり、交流電圧を加えると、伸び縮みを繰り返して振動し、超音波を発生するのです。このように圧電セラミックスは、電気エネルギーと機械エネルギーを相互に変換する機能を持っています。この機能を活用し、身近な生活機器から私たちが直接触れることのない産業機器まで、圧電セラミックスは幅広く利用されています。

スは、電気エネルギーと機械エネルギーを相互に変換する機能を持っています。この機能を活用し、身近な生活機器から私たちが直接触れることのない産業機器まで、圧電セラミックスは幅広く利用されています。

圧電セラミックスの身近な使用例



プリンタのインクヘッド

圧電セラミックスでできたインク壺がベコベコ動いてインクを吐出する。



カメラレンズの自動焦点モータ

自動で焦点を合わせる。レンズにUSMと表示されている。



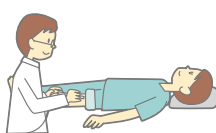
スピーカ

携帯電話の画面に耳をあてると、穴がなくても音が聞こえる。



超音波診断装置

胎児の性別や成長を確認したり、腹部の病気を診断したりする。



超音波カテーテル

血液があっても超音波で血管内壁が見える。



眼鏡の洗浄機

超音波で眼鏡を洗浄する。



ノックセンサ

ノッキングを検知する。

バックセンサ

障害物に近付くと知らせてくれる。



振動発電

踏みつけた力を電気に変換する。

圧電セラミックスに含まれる鉛が課題

圧電セラミックスに一般に使われている材料は、チタン酸ジルコン酸鉛（PZT）です。PZTは、名前の通り、その成分に鉛を含んでいます。鉛には毒性があることから、PZTを使用する製品が廃棄される際、適切に処分されないと、鉛が溶け出して土壌や河川を汚染し、私たちの健康に影響を及ぼすことが懸念されています。そのため、鉛の使用について、欧州をはじめとする各国で規制が強化されています。

しかし、欧州のRoHS指令では、PZTなどの電子セラミックス中の鉛は技術的に代替が難しいために、現在は規制の適用除外となっていることから、PZTの圧電セラミックスが使用されています。

現在のところ、電子セラミックス中の鉛は適用除外となっていますが、今後、鉛の使用についての規制は厳しくなると予測されるため、鉛を含まず、かつPZTと同等の特性を持つ圧電セラミックスの開発が必要となっています。

鉛を含まない圧電材料を開発！

PZTの代替材料として期待される材料に、ニオブ酸カリウムナトリウム（KNN）があります。しかしKNNの結晶粒子はサイコロ状であるために粒子間に空隙が生じやすく、材料としての安定性を図ることが、特性向上とともに、実用化に向けての大きな課題でした。

そこで当社は研究を重ね、KNNを主成分とする相と別の相（NTK相と命名）を混合することで、緻密な構造で、PZTに近い特性を示す無鉛圧電材料を開発しました。そして、開発した材料で作った圧電セラミックスを当社製のノックセンサに適用してテストしたところ、

PZT並みの性能を持つことが確認でき、実用化の可能性が見えてきました。

今後さらに研究を重ね、無鉛圧電セラミックスの実用化に向けて尽力していきます。



開発した無鉛圧電材料



無鉛圧電素子と
ノックセンサ



技術開発本部 大林 和重

KNN無鉛圧電材料が発見されて50年以上が経過しています。我々がこの材料開発に取り組んでもうすぐ15年です。世界中から期待され研究され続けながら未だに実用化でき

ていない、いかにこの材料が作り難いか、でも魅力ある材料か、この年数からもお分かりいただけると思います。それでもここ数年やっと実用化の目処が立ってきました。研究スタッフが頑張って大切に育ててきた成果だと思います。最近は多くの方々にご協力いただき感謝しております。なんとしても無鉛圧電材料を世界に送り出したいです。

03 見えないところで活躍する製品群

私たちの製品や技術は、自動車や二輪車、携帯電話、LED照明といった暮らしに欠かせない身近な製品から、風力発電、鉄道・航空機、通信網といったインフラ施設まで、幅広く使用されています。これから、未来の価値を創造するものづくり企業として、最先端の製品・技術で広く社会に貢献していきます。

風力発電機の軸受け用

セラミックベアリングボール

クリーンなエネルギーとして注目される風力発電。当社は、風力発電機の軸受けに使用される窒化珪素製の大型セラミックベアリングボールを開発しました。主な特長は、①軽量でエネルギーロスが少ない、②絶縁性セラミックスのため電食が発生せず長寿命、③希薄潤滑下でも使用可能なこと。直径50mmのベアリングボールは、大型の風力発電機で、円滑な回転を支えています。



医療用酸素濃縮器

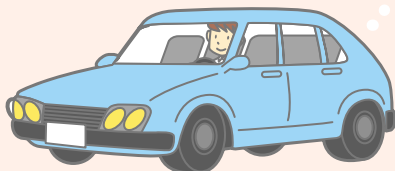
サンソメイトー3G

サンソメイトは、慢性呼吸器疾患の患者様に濃縮酸素を供給する医療機器です。2012年夏発売の3Gは、より安全に、正しく使用していただくためにユニバーサルデザインを追求し、操作パネルの拡大、異常警報のアイコン化、流量選択のボタン化などの改良を行いました。また、部品点数の削減や素材の変更により、従来器より容積8%、重量24%の小型・軽量化を果たしました。



中国専用に開発したスパークプラグ

「NGK CX ^{れつえん} 烈焰プラグ」は、当社で初めて絶縁体に漢字「烈焰」を印字した中国専用のプラグです。画期的なデザインだけでなく、性能面では中心電極に白金合金を採用して極細化を実現したことにより、一般プラグに比べて燃焼効率が飛躍的に向上しました。「着火性」が高く、「燃費」「加速」「始動」「耐汚損」にも優れた高性能プラグです。

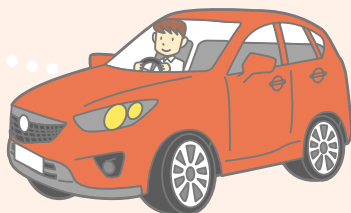


セラミックグロープラグ

グロープラグは、ディーゼルエンジンの始動補助部品です。当社では、一般的なメタルグロープラグに加え、高性能なセラミックグロープラグを生産しています。ヒータ部のセラミック化により高温発熱が可能で、排ガス中の有害物質低減に貢献しています。最新のクリーンディーゼル車では、発熱時間が長くなっており、耐久性に優れるセラミックグロープラグが脚光を浴びています。



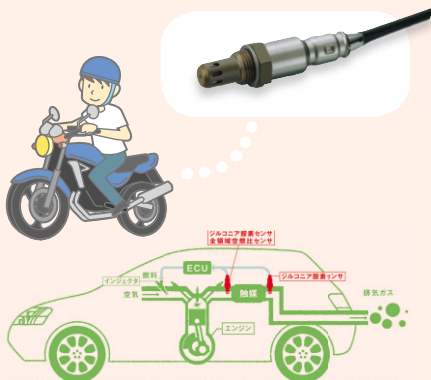
最新のNHTC®2は
1000℃に1秒で到達



自動車用酸素センサ

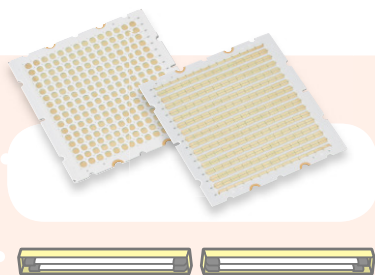
自動車用酸素センサは、三元触媒*の上流・下流に装着され、排気ガス中の酸素濃度に応じて電気信号をECUに送り、エンジンの空燃比を制御するシステムの中核部品です。

日米欧の厳しい排ガス規制への対応に加え、今後、規制が強化される新興国においても、耐久信頼性・耐熱性に優れ、小型・軽量・高耐震性を実現したセンサを開発し、排気ガスのクリーン化に貢献していきます。



LED用セラミックパッケージ

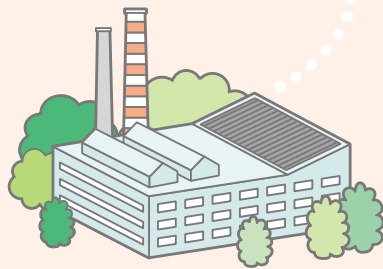
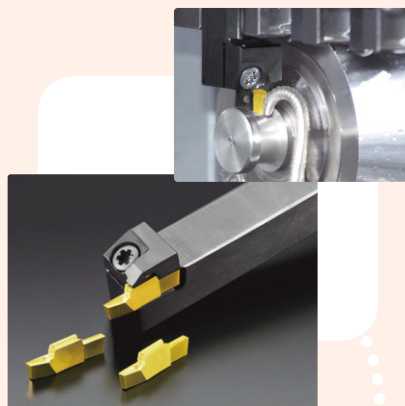
今や省エネルギーの代名詞となったLEDは私たちの生活に欠かせない技術となっています。当社の積層セラミック技術を使用したLED用パッケージは、LEDの長所の一つである高寿命を支えるパッケージング技術として産業用途やインフラ用途に多くのお問い合わせをいただいています。長年培ったセラミック技術で皆さまの将来を明るく照らします。



後挽き加工用工具「BACK DUO」

小型自動旋盤の後挽き加工では、切屑が加工品に絡む、加工面をきれいにするために仕上げ加工が必要、という問題がありました。BACK DUOは、独自の3次元ブレードによってこれらの問題を解決。さらに、切屑処理性能、加工面、精度、サイクルタイム、工具寿命、チップ交換のしやすさなど、工具に求められるあらゆる性能を改善し、お客様の生産性向上に貢献しています。

この成果が認められ、超硬工具協会より、技術功績賞を受賞しました。

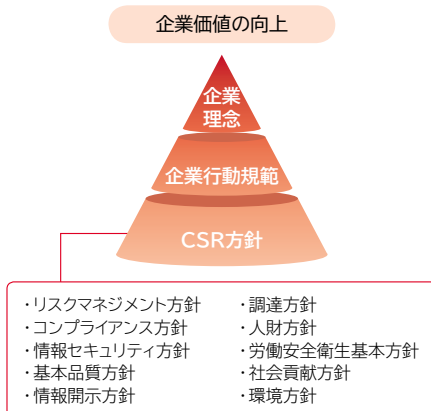


私たちのCSR

企業理念に基づいて当社グループの経済・環境・社会活動をグローバルな視点で再点検し、社会に説明責任を果たすことで、企業価値の向上、ひいては社会の持続的発展に寄与することを「私たちのCSR」と考えます。

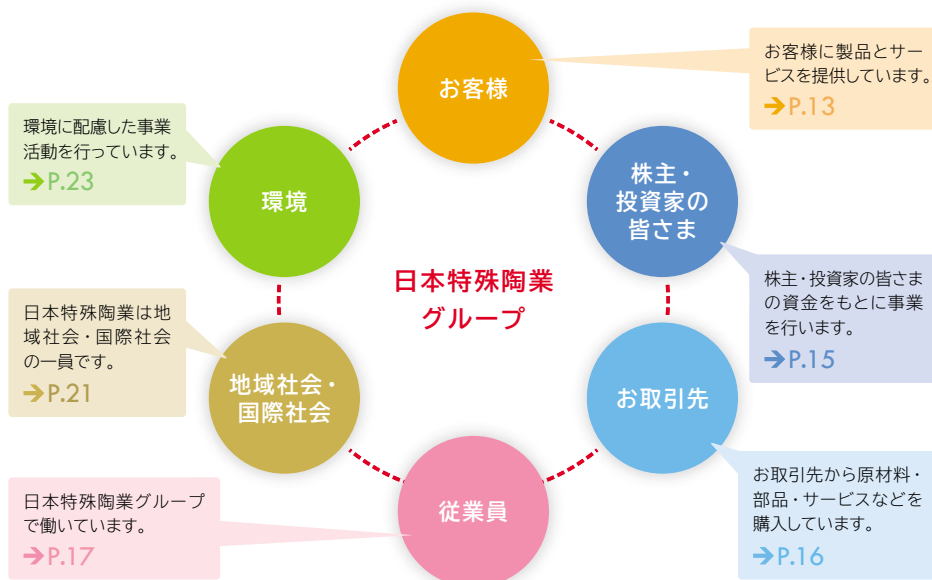
2011年4月、CSRに関する行動指針としてCSR方針を制定しました。CSR方針は、コンプライアンス方針など10の方針を総称するものです。私たちは、CSR方針に基づき、CSRを多角的に、かつ検証しながら進めていきます。

■ 理念・方針の体系



私たちのステークホルダー

私たち日本特殊陶業グループは、お客様、株主・投資家の皆さまをはじめとするさまざまなステークホルダー（利害関係者）と関係し、支えられて成り立っています。



より良い製品・サービスを提供し続ける会社づくりへの配慮

HighLight

TQM（総合“質”経営）への礎とする 品質力向上活動を推進しています。



基本品質方針のもと、お客様にとっての価値を創出し、継続的に維持・向上していくため、すべての人が当社の製品・サービスの“質”にこだわり続けていくことを、人づくり、ものづくり、仕組みづくりを通じて働きかけています。

2012年度の品質月間では、第6次中期経営計画の新たな3か年を迎えるにあたり、日特の“質”経営と進化論をテーマとして講演会およびパネル討論会を開催しました。



品質統括センター
澤田 俊樹

品質統括センターでは、会社の質を向上させる、“質”経営に向けた各種品質力向上活動を、事業部と連携して一丸となり推進しています。私たちは品質にこだわる“ものづくり企業”として強い使命を持ってお客様に安全・安心な製品を提供し続けます。



〔品質統括センター〕
村松 真理子

日特全体の品質レベルの
基礎づくり！

◎ 品質教育

品質管理、管理技術手法、QCサークル活動、品質マネジメントシステム、計測管理などの教育プログラムを整え、学んだ知識を活用するための実践指導・支援を実施しています。また、品質意識の向上、動機付け、品質教育の一環として、品質展示会、講演会などを行っています。お取引先に対しても、継続的な品質改善によって安定した高品質の部材を納入していただけるように、品質教育や問題解決の実践支援を行っています。



● NQC活動（小集団活動）

身近な問題・課題を継続的に改善し、人材育成や職場力向上を目的としたQCサークル活動*を、「NQC活動」と称して全社で展開しています。

毎年11月の品質月間には、NQC活動の成果を全社発表会で発表し、優秀事例に社長賞を授与して表彰しています。さらに、毎年6月に開催する全社の改善事例発表会・表彰式では、年間を通じて着実にNQC活動を行ってきた優良サークルに対する日常活動の表彰や、海外法人における改善活動の優秀事例に対する表彰も行っています。

また、QCサークル指導士が参画する活性化チームの結成など、推進組織の強化や、社外研修や発表会への参加による意欲向上などを通して、さらなるNQC活動の活性化や質向上を図っています。



〔品質統括センター〕
高橋 正枝

実践を通して人材育成を目指すこの活動の普及を支援しています。

voice 半導体事業部 品質保証部 野呂 一彦



私は、事業部委員会の事務局を担当しています。QCサークルの基本理念である「自分のために」「仲間のために」「会社のために」を念頭に、3年前から face to face を基本として活動（会合開催）に重点を置き、活動時には各サークルへ出向いて指導・支援し、職場のコミュニケーションを良くするよう取り組んできました。

2013年度からは、QCサークル指導士としてNQC活動の活性化チームのメンバーに加わり、NQC活動の活性化や活動の質向上に向けた、新たな制度・仕組みづくりに関わっていきます。

● 安心・安全にご利用いただくために

各種展示会やモータースポーツ会場に出展し、お客様に当社の製品・技術を直接説明するとともに、常に変化するニーズを把握しています。会話を通して頂戴するご意見はもちろんのこと、製品やサービスに関してお客様から寄せられるお問い合わせや苦情は貴重な情報です。営業部門が受け付けて、品質保証部門、技術部門と協力して迅速な解決を図るとともに、製品・サービスの改善につなげています。

万一、製品などの不具合によりお客様に危険が及ぶことが懸念される場合には、当社ウェブサイトや新聞などを通して速やかにお知らせするとともに、安心してご利用いただくための対策を実施します。

製品の無償交換、無料安全対策のご案内（詳細はウェブサイトをご確認ください）

- レーシングプラグの無償交換
- 室内型温湿度検出器および室内型湿度検出器の無料安全対策



ネプコンジャパン2013



FC EXPO2013

愛され親しまれる企業であるために透明性の高い経営を目指す

HighLight

個人投資家さま向けの会社説明会を強化し、会社認知の向上を目指します。



2013年4月に広報室を新設し、IR*活動として、株主・投資家の皆さまに、当社を取り巻く経営環境や財務の状況、将来に向けた成長戦略などを発信しています。

今後の取り組みとして、特に個人投資家さま向けの会社説明会を強化していきます。これまでの東京・大阪・名古屋の大都市圏のみならず、活動範囲を全国へ広げ、より皆さまの近くで説明会を開催することで、会社認知の向上を目指します。



voice

広報室
松野 力樹

当社の知名度は、全国的に見るとあまり高くないというのが現状です。今後の会社説明会の拡大で、「日本特殊陶業」をよりご理解いただく機会を増やし、日本特殊陶業ファンの拡大につなげていけるよう、皆さまの記憶に残る説明会を実施していきます。

◎ 配当の考え方

当社は、株主の皆さまに対する利益還元を経営における最重要政策の一つと認識し、安定的な配当の継続を基本方針としています。一方で、収益に応じた利益の還元も重要と考えており、当面、連結での配当性向20%以上を目処にしつつ、将来の成長に必要な研究開発、事業拡大・合理化のための設備投資および出資に充てる内部留保を総合的に考慮したうえで、中間および期末配当を継続的に実施していく方針です。

こうした方針のもと、2012年度は1株あたり22円の年間配当を実施しました。



パートナーとしての信頼関係の構築と相互発展のために

Highlight

CSR調達ガイドラインを公開しました。



当社の考えるCSR調達のあり方をガイドラインとしてまとめ、ウェブサイトで公開するとともに会社方針説明会で発表しました。

人権・労働、環境、公正取引・倫理、社会貢献などについてあるべき姿を掲げ、CSRの推進はお取引の要素の一つであることを位置付けました。CSR調達を通して、お取引先との強固な信頼関係を構築するとともに、社会の持続的発展に貢献していきます。



voice

取締役執行役員
調達本部長
大川 哲平

調達本部ではグローバル最適調達を進めています。日本とは法律、習慣や文化基盤も異なる海外のお取引先からの調達を広げるにあっても、当社のCSRに関する考え方を示すことは重要です。公正で開かれたお取引を通じて、ともに発展するサプライチェーンを目指します。

● グリーンサプライヤー制度の拡大

当社は「環境に優しいものを、環境に優しい取引先から購入する」という基本的な考え方に基づき、「エコビジョン2015」の計画に沿って、グリーン調達を推進しています。その一環として、2007年度よりシステム基準とマテリアル基準を満たすお取引先をグリーンサプライヤーに認定する活動を行っています。これまでは当社単独での取り組みでしたが、2013年度からは枠組みを広げて当社グループとしての活動を開始しました。原材料・部品・製品・包装材・補助材料のお取引先に対して審査を行い、認定企業は計306社になりました。



[調達本部]
岩田 暁真

品質、技術、価格、納期だけでなく環境も意識した調達活動を行っています。

多様性や個性を尊重した豊かな人“財”の育成

HighLight

ものづくり企業に必要な知識・技能を継承するため、ものづくりセンターを発足しました。



当社はものづくり企業であり、良品を作り続けるには、ものづくり力の維持・向上が必要です。しかし、日本では、団塊の世代の一斉退職やパソコンやゲームの普及などの時代の変化に伴って若者のものづくり離れが見られ、日本企業全体でものづくり力のレベルダウンが危惧されています。

そのため当社では、「ものづくりセンター」を発足し、適切な時期に必要な知識・技能について教育と訓練を受ける場として、「ものづくり教育訓練場」を設立しました。今後、ものづくりに関する社内教育システムを拡充し、ものづくり企業としての基盤を強化していきます。



voice

執行役員 ものづくりセンター長 鈴木 英光

ものづくり力は当社の基盤であり、強化し長く継承するという信念のもと、2013年4月より「ものづくりセンター」を発足、人づくりをも担う「ものづくり教育訓練場」を設立しました。従業員が備えるべき知識・技能を明確にして、適切な時期に必要な教

育と訓練を施し、ものづくり企業の一員としての「安全、品質、技能」の基礎を整備します。同時に日時のルールを教え、社会人として「規律」ある常識的な行動ができる人づくりと、活力と柔軟性のある「心づくり」も併せて目指します。

●ものづくり教育訓練場のコンセプト

「優れたものづくりは人づくりから」との信念のもと、ものづくり企業の従業員が基本的に備えるべき知識・技能を明確にし、適切な時期に必要な教育・訓練を受けられる体制を整備します。また、教育・訓練を通して、社会人として常識的な行動ができる人づくりを行います。そのため、ものづくり教育訓練場では、安全、品質、技能（知識）を3つの柱とし、規律をそれらすべての土台と位置付けています。

従業員の技能や知識に応じたカリキュラム（レベル0～3）を用意し、教育・訓練を実施しています。現在はレベル0の従業員への教育が中心ですが、段階的にレベルを上げていき、将来は海外法人への展開やITを使った研修会の開催なども計画しています。



〔ものづくりセンター〕
水谷 和生

知識だけでなく自ら考え
いこなせる人づくりにも取
り組んでいます。



〔プラグ事業部〕
品質保証部
玉田 真以

機械の性能に対して驚き
と怖さを感じ、事故防止の
重要性を学べました。

●レベル0研修会の開催

ものづくり教育訓練場の最初の教育・訓練として、高卒新入社員向けのレベル0の研修会を開催しました。

レベル0の研修会では、「知る、解る、できる」を目標とし、体験型の7教科（安全体感機による危険体感、環境の取り組み、計測機器の取り扱いなど）と、座学と演習中心の8教科の合計15教科を3週間にわたって行いました。実際に工具を用いて加工する、模擬キットを使用するなどの体験を多く取り入れたほか、座学の時間においても、工場見学や演習、グループディスカッションを行うなど、飽きさせない工夫も行っています。



●人“財”の育成

実際の業務を通して必要な技術や知識を職場で身につけるOJT (On the Job Training) を基本とし、職場を離れて新たな技術・知識・スキルを身につけるOFF-JT (Off the Job Training) を行っています。OFF-JTでは、品質教育やものづくり教育をはじめとして、階層別役割教育、グローバル人材教育、キャリア支援など幅広いプログラムがあり、2012年度は延べ4,581名が受講しました。

また、従業員のキャリア開発を支援するツールとして「Myキャリア」を運用しています。従業員が半年ごとに職歴、スキル、知識、目標、希望職種、自由意見などを記入し、「できること」と「やりたいこと」を確認することで、キャリアアップにつなげています。



〔人事部 能力開発G〕

「人“財”」は最大の経営資源であるという認識のもと、取り組んでいます。

◎ 安全・安心な職場環境づくり

従業員が個々の能力を十分に発揮するためには、安全・安心な職場環境を作ることが必要です。そのためには、職場に潜むリスク（危険源）を把握し、管理することが重要です。

これまでリスクアセスメント*を実施してきましたが、抜けや漏れが多く、リスクとして把握していなかったところで災害が発生していました。そこで、「網羅的全てのリスク（危険源）の把握」を合言葉として、徹底的にリスクを洗い出し、管理する「新リスクアセスメント」を開始しました。

2011年度はプラグ事業部小牧製造部にモデルラインを設定して網羅的に調査する手法とツールを検討し、2012年度に部内に展開しました。また、他工場や他の事業部にもモデルラインを設定し、新リスクアセスメントを展開しています。今後は、間接部門や関係会社を含む当社グループ

全体に展開していきます。

ただし、安全・安心な職場環境とするには、リスクの低減・管理に並行して、残存したリスクに対応できる人づくりの活動も必要です。設備、作業の知識や危険予知能力など、必要なスキルが身についているかを評価し、不足している場合には計画的にスキルアップを図るなど、人材育成に努めます。



〔プラグ事業部〕
小牧製造部
桑波田 満

新リスクアセスメントでは、危険源の有無を客観的に見切ることが大事です。

◎ 従業員の健康増進

当社は、労働安全衛生基本方針のもとに「心身ともに健康な状態で出社し、すこやかな笑顔で帰宅しよう!」とのスローガンを掲げ、従業員の健康増進に取り組んでいます。

しかし、その基本は、「自分の健康は自分で守る」ことです。そのため、従業員の健康意識を高め、自己管理を促進するよう、社内報などを通して広報活動に力を入れています。

定期的を実施する一般健康診断や特殊健康診断においては、有所見者には産業医*、診療医、産業保健スタッフがフォローするとともに、必要時には、連携する医療機関を紹介し、疾病の早期発見と回復に努めています。

メンタルヘルスについては、管理職などが職場環境等の改善や個別の指導・相談を行うラインケアと、本人がストレスに気付いて対処するセルフ

ケアが重要とされています。当社では、管理職等を対象とするラインケア教育を実施するとともに、従業員に『セルフケアハンドブック』を配布し、ストレスチェック表を活用してセルフケアの重要性を周知・啓発しています。その一方で、不調を感じた従業員が電話で気軽に相談できる窓口を社外に開設するなど、心の健康づくりに努めています。



〔人事部〕
(左)安部 史興
(右)寺村 晶宏

現場で直接伝えることの重要性を再認識し、今後も「気付き」を発信し続けます。

○ ダイバーシティへの取り組み

性別、年齢、障がい、国籍などを問わず、多様な人“財”がいきいきと働き、そこから生み出される新たな価値や発想を活かしていくことが、従業員の幸せと企業の成長につながると考え、ダイバーシティの推進に取り組んでいます。特に日本では、労働人口の減少や女性の活用が課題となっていることから、やる気のある女性社員の活躍を推進しています。

女性の総合職は年々増えており、総合職における女性の割合は10%を超えています。また、女性の役職者（係長職以上）は2013年3月末現在26名、海外勤務者は同5名に増加し、活躍の場が世界へと広がっています。

2012年度は、社外講師を迎えて「ダイバーシティ講演会」（対象：女性とその管理職）や「女性リーダー研修」（対象：係長昇進前の女性）を開

催し、本格的に取り組みを開始しました。今後も、管理職の理解促進、女性の意識向上を中心に、活動を継続していきます。



voice ダイバーシティ講演会参加者

〈女性〉 ● 講演会をきっかけに、変化が生まれることを期待したい ● 男女の違いをお互い理解できる場があると良い

〈管理職〉 ● 女性、男性、会社、それぞれが固定観念を改めることが必要である ● 女性の考え方ややり方で、今後も新しい活動を期待する

○ 仕事と生活のバランス

いきいきと働き続けるには、仕事とそれ以外のバランスが重要です。そのため当社は、各種制度を設け、従業員を支援しています。

育児を行う従業員には、育児休職制度や短時間勤務制度などがあり、2012年度は46名（内、男性1名）が育児休職制度を利用しました。近年、

男性の育児休職取得者が増えており、2012年度末までに累計8名になりました。

ボランティアを行う従業員には、ボランティア休職制度（最長2年4ヵ月）があります。2013年6月現在、1名の従業員が青年海外協力隊員として活動しています。

voice 青年海外協力隊 石原 洋

会社を2年間休職し、青年海外協力隊の隊員として中央アジアの山国、キルギスのナリン県に来ています。この地域では、新たな収入向上手段の一つとして観光産業の拡大を目指しており、私は県役場やNGO団体などとともに観光振興を手伝っています。観光案内施設の運営支援が主な活動ですが、地域の方々に外国に興味を持ってもらうことも外国人観光客の受け入れやおもてなしの面で効果があると考え、日本文化を紹介するお祭りを実施したり、青少年センターで英語クラスを手伝ったりしています。



地域社会や国際社会の一員として豊かな社会づくりに貢献

HighLight

「人づくり」を支援する活動として、 公立学校に数学ゲームを広めました。



ブラジル特殊陶業有限会社は、「人づくり」を支援する活動を継続的に実施しています。2012年度は、モジ市の公立学校の教師と生徒に、『数学ゲーム図書館で冒険』という本を使って数学の学習を促すプロジェクトを展開しました。このプロジェクトでは、生徒が

興味を持つためには教師の指導が重要と考え、教師向けのワークショップも実施しました。参加した91名の教師は各校に戻り、5、6年生の約9,000名にゲームが伝えられました。このゲームを通して数学の面白さに気づき、学習が進むことを期待しています。



voice

ブラジル特殊陶業(有)
総務人事部 ファビアナ・クーニャ

青少年の人間形成に貢献するためには、多くのコミュニティの青少年が参加すること、プロジェクトを支える教師や学生の家族が関与することが重要

と考えてプロジェクトを実施しました。その結果、地元の教育長から、期待以上の成果を得ることができたとの評価をいただきました。



英国NGKスパークプラグ(株)

障がい者にモータースポーツを広める団体を支援し、サーキットで走行会を開催しました。



小牧工場

こまき産業フェスタにスタッフとして参加し、子どもから大人まで楽しめるイベントを企画しました。



各工場・関係会社

自動車産業に関わる企業として、定期的に街頭に立ち、通行者に交通安全を呼びかけています。



友進工業(株)

地域の教会が実施する給食を無償で配布する活動に参加し、給食をつくりました。



中東NGKスパークプラグ(株)

ドバイ最大の障がい者学校に、防犯および生徒モニター用のCCTV53台を寄贈しました。



各工場・関係会社

病気やケガで血液を必要とする方々を支援するため、定期的に献血活動を実施しています。



宮之城工場

さつま町夏祭りに参加し、五ツ太鼓の勇壮な音色に合わせて160名が手踊りをしました。



宮之城工場

地元の小学生25名を招き、ラグビー部員によるラグビースクールを開催し、交流を深めました。



NTKセラミック(株)

AEDをいつでもどこでも活用できるよう、普通救命とAEDの取り扱いについて講習を受けました。

持続可能な社会の構築のために総員参加で環境保全

HighLight

タイNGKスパークプラグ(株)、メキシコNGKスパークプラグ(株)がISO14001*認証を取得しました。

海外法人におけるISO14001取得状況

(2013年4月末現在)



当社は、グローバルな企業活動を通じて、国内・海外の事業所において環境マネジメントシステムを構築し、環境に配慮した事業活動を推進しています。海外法人については個別にISO14001の認証取得を進めており、2012年度は、製造販売法人のタイNGKスパークプラグ(株)と販売法人のメキシコNGKスパークプラグ(株)が認証を取得しました。

これにより、2012年度末でISO14001の認証を取得した海外法人は15社になりました。

今後、当社グループの中長期的な環境取り組み構想である「エコビジョン2015」に掲げた「グローバルエコビジョンの策定」に向け、海外法人と一体となって活動を進めます。

エコビジョン2015〈掲載場所〉

<http://www.ngkntk.co.jp/csr/ecovision.html>

voice メキシコNGKスパークプラグ(株)



2012年2月より、ISO14001の認証取得という、とても重要でやりがいのある活動に、チームで取り組んできました。

私たちは自らの考えや行動を変え、環境に貢献する活動を引き続き行っています。そして次世代により良い環境を残すため、この変化の一翼を担ったことをとても誇りに思っています。

○ 改正水質汚濁防止法への対応

2012年6月に、有害物質による地下水汚染の予防をねらいとして、水質汚濁防止法が改正施行されました。

当社では、法改正以前より、有害物質による地下水汚染を重大なリスクと捉え、その未然防止を図るべく、環境マネジメントシステム（EMS）の仕組みを活用し、運用基準の策定、監視活動などの対策を実施してきました。

今回の法改正により、改めて、対象施設の特定、構造基準の判断、点検または必要に応じて改修が求められるため、関連部門が協議・連携し、対応しています。

今後も法遵守に万全を期すとともに、EMSの仕組みに取り入れながら、継続的にリスク低減を図っていきます。



voice

プラグ事業部
小牧製造部
古里 義昭

今回の法改正により、金具部分をめっきするラインが対象施設になったため、法律で定められた基準に則って構造基準の判断を行いました。その結果、施設の改修が必要と判明したため、順次、改修工事を進めています。

今後は点検を万全に行い、地下水汚染の予防に努めます。

○ 環境教育の新規開設

当社グループでは、従業員の環境意識の向上を図るため、2012年度に新たに3つの環境教育講座（環境基礎講座、環境負荷物質集計手順講座、環境マネジメントシステム講座）を開設しました。

2012年度は、環境教育を全地区で計49回開催し、合計827名が受講しました。

2013年度以降も、環境教育を継続的に実施



し、当社グループ従業員の、環境に対する意識の底上げに努めていきます。

また、受講者からの声（アンケート結果など）を反映して教育活動の改善を図るとともに、部署や従業員のニーズに合わせたより良い教育を目指す、教育の仕組みを構築していきます。



voice

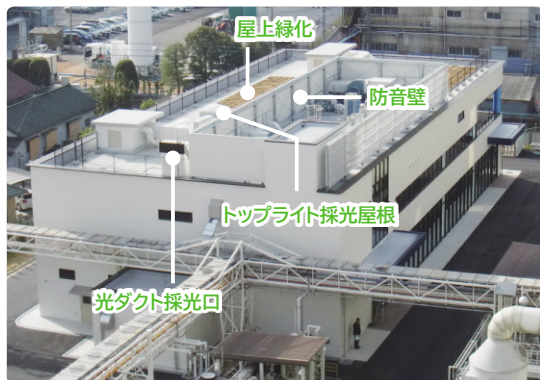
半導体事業部 技術部
田中 和孝

これまで個人では、使用する紙の削減やPCモニタOFFなど、紙・ごみ・電気を減らす努力が中心でしたが、環境基礎講座を受けて、本業の課題である工程の歩留改善も有益な環境側面であることが理解できました。今後も本来業務とリンクした環境活動を推進していきたいと思います。

すべての事業活動を通じて環境保全活動を推進

HighLight

製品を作る時はもちろん、
工場を建てる時も環境に配慮しています。



建築物を計画する際には、周辺地域の騒音・振動・悪臭・排水などに配慮するのはもちろんのこと、エネルギーの抑制対策を採用するなど、環境に配慮した建屋づくりに取り組んでいます。

セラミックセンサ(株) 食堂棟

騒音対策として屋上に防音壁を、厨房からの臭いを抑えるために排気フードに水フィルタを設置しました。省エネにも力を入れており、自然採光(トップライトや光ダクト)を取り入れたほか、断熱効果を上げるために屋上緑化やペアガラスを採用しました。また、空調室外機に散水冷却システムを採用し、水の気化熱を利用して空調効率の向上を図っています。



voice

工務部 プラント設計課 野々垣 篤

セラミックセンサ(株)の食堂棟を設計した際、近隣住民の皆さまに対して特に気を配った点は、建物から漏れる光や厨房からの臭気、ファンによる騒音です。

光の対策として、夜間に光が建物から住宅側へ漏れないよう、窓は必要最低限にしました。窓を減らし

た分、トップライトや光ダクトを採用することにより、極力自然の光が入るようにしました。

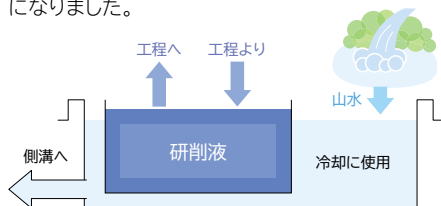
完成後だけではなく、建設中の環境配慮も重要な仕事として捉え、低騒音タイプの建設重機を選定したり、時間を制限したりして工事を実施しました。

◎ 山水を利用した研削液の冷却

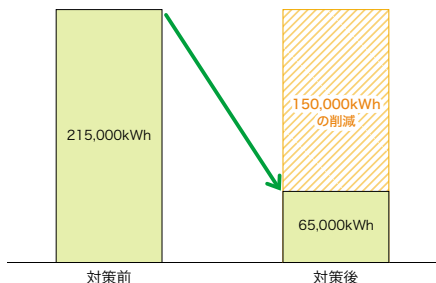
(株) 神岡セラミックは、当社製品の研磨を多く行っており、研削液を多量に使用しています。使用して温くなった研削液は、集中ろ過装置で冷却して、再び研削液として利用します。

従来、研削液の冷却にはオイルクーラーを使用していましたが、2011年に、地の利を活かして山水を冷却に利用するように切り替えました。

対策前の電力使用量はろ過装置全体で年間215千kWhでしたが、山水を利用するようになった後は年間65千kWhとなり、年間で電力量150千kWhの削減、CO₂排出量50トンの削減になりました。



■ ろ過装置の電力使用量（年間）



〔(株)神岡セラミック〕
社長 戸舎 顕博

自然に恵まれた神岡の環境をいかに活用できるかを考え日々活動しています。冬季の雪を溜め、花壇の散水に利用することも実施しています。

◎ 生物多様性に関する指針の発行

生物多様性は、世界的に保全の必要性が高まっており、当社グループにおいても地球温暖化*防止、資源循環促進に並ぶ重要な環境課題の一つとして環境方針に掲げ、取り組みの推進を図っています。

当社グループは、生物多様性への取り組み方針を示した「日本特殊陶業グループ 生物多様性に関する指針」を策定し、2013年4月1日に発行しました。指針では、当社グループの事業活動と生物多様性との関係を考慮し、製品ライフサイクルの各段階において省エネ、省資源、環境負荷物質低減などの環境配慮を行うことで、生物多様性の保全に貢献することを目指しています。

今後は、この指針に基づき、本業に即した環境活動をより一層推進し、生物多様性の保全に努

めていきます。

なお、「日本特殊陶業グループ 生物多様性に関する指針」は、当社のウェブサイトにてご覧いただけます。

**日本特殊陶業グループ
生物多様性に関する指針**

活動をイメージしにくい生物多様性について、具体的な行動を記載しています。

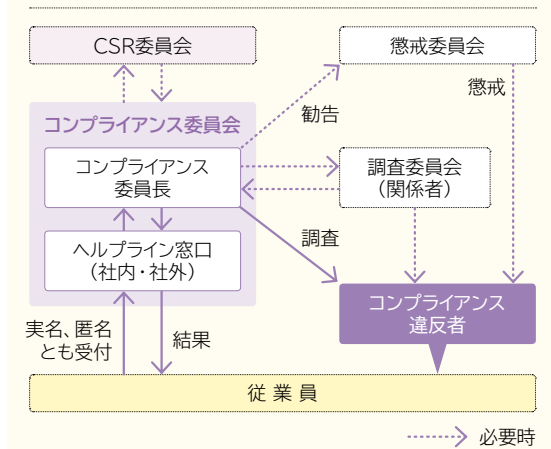
〈掲載場所〉
<http://www.ngkntk.co.jp/csr/communication.html>

企業倫理を高め、社会から信頼される企業を目指す

HighLight

企業倫理ヘルプライン制度を見直し、 通報が増えました。

ヘルプライン通報後の流れ



従業員がコンプライアンス違反行為やそのおそれのある行為を発見した場合に相談・通報できる制度として、企業倫理ヘルプラインを設けていますが、匿名でも相談できるように制度を見直し、コンプライアンス委員会や『コンプライアンスガイドブック』を通して、制度の周知に努めました。

その結果、2012年度の通報件数は前年に比べて増加し、すべての通報に対処しました。



voice

総務部
森 康雄

企業倫理ヘルプラインは、誠実に通報を行った方が不利益を被ることがないように配慮しています。また、すべての通報について調査を行い、事実を確認したうえで、是正措置と再発防止策を講じています。

● 機密管理の徹底

企業における機密事項の管理は、不正競争防止法、個人情報の保護に関する法律などの法令遵守はもちろんのこと、近年の急速なITの発展に伴ってますます重要度が増すとともに複雑化してきています。

当社は機密管理規程を制定し、自社ならびにお客様やお取引先の機密事項の適正な管理に努めています。2012年度は前年度に策定した全社的機密管理ルールの実用の充実を図りました。具体的には、機密管理エリアの設定基準の見直しや、最近機能が多様化する電子機器の社内への持ち込みルールの明確化等を行い、標準化しました。



〔総務部〕
前川 忠重

全社的な機密管理を推進し浸透させ定着させる活動を行っていきます。

さまざまなリスクの影響を最小限に抑えるための備え

Highlight

大規模地震の発生を想定し、 全社防災訓練を実施しました。



2012年に規律化した緊急時対応計画と事業継続計画をもとに、2013年3月、大規模地震の発生を想定した全社一斉防災訓練を実施しました。目的は、防災のマニュアルを理解し実際に地震が発生した時に混乱せずに行動することです。

訓練開始直後に設置した緊急時対策本部では、各工場、各拠点から衛星電話によって、従業員の安否や工場の状況について報告を受け、被災状況を把握するとともに、緊急時の連絡機能を確認しました。

また、緊急要員は、災害時に情報が続々と入る状況を疑似体験するため、図上シミュレーション訓練を行い、緊迫下で的確に判断する難しさを学びました。



総務部 会田 祐樹

BCP*における訓練の目的とは、「事業を継続できる組織的な能力を不断に向上させ続けること」です。その能力とは右の3つの対策で構成されています。

図上シミュレーション訓練は、(3)に主眼を置き、緊急時対応の難しさを実体験することで、参加者に多くの“気づき”を与えることを目的として実施しました。

- (1) 耐震強化やバックアップ拠点・システムの設置などのハードに対する強化対策
- (2) 役割分担や判断基準・行動手順などを整備するソフトの準備
- (3) 臨機応変かつ迅速な対応行動を取れる人材のスキル強化

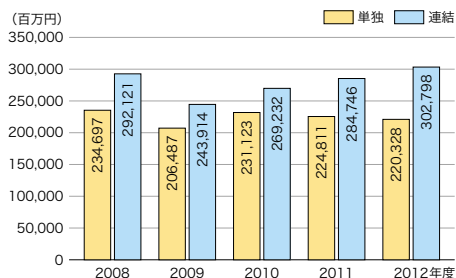
会社概要 (2013年3月末現在)

社名 にっぽんとうくしやとうぎやう
日本特殊陶業株式会社
本社 名古屋市瑞穂区高辻町14-18
創立 1936年(昭和11年)10月26日
資本金 478億6,927万円
事業内容 1. スパークプラグおよび内燃機関関連品の製造、販売
2. ニューセラミックおよびその応用商品の製造、販売、その他
グループ 子会社34社(国内9社、海外25社)
関連会社6社

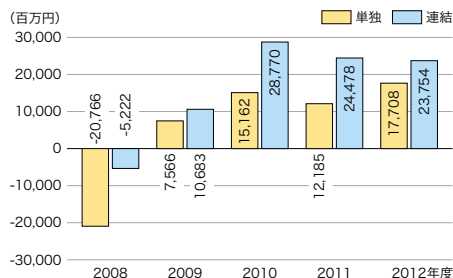


経営指標

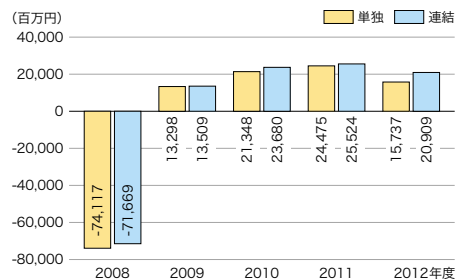
売上高



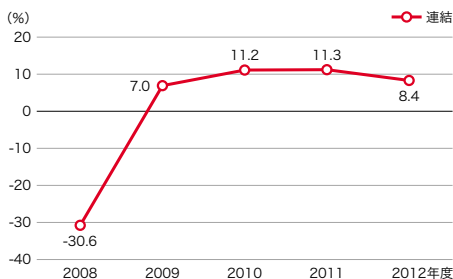
営業利益



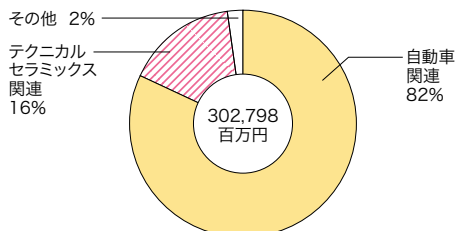
当期純利益



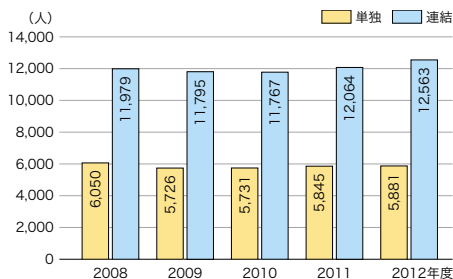
自己資本当期純利益率 (ROE*)



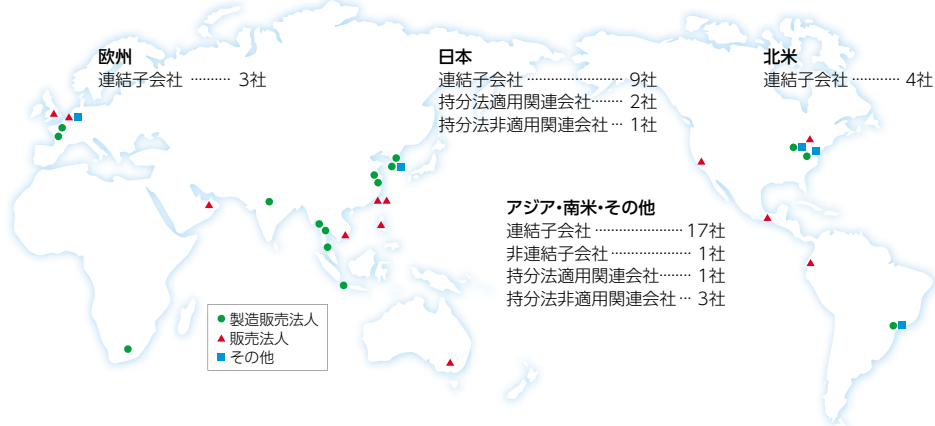
セグメント別売上高



従業員



※組織改編(2013年4月1日付)により、情報通信関連事業本部とセラミック関連事業本部を統合し、テクニカルセラミックス関連事業本部としました。



用語解説

コンプライアンス（P.2）…企業が社会の一員として企業倫理を高め、法令、国際ルール、社会規範ならびに社内諸規程の精神・趣旨を理解し、これらを遵守することにより企業の社会的責任を果たすことをいう。

産業医（P.19）…企業内にあって、労働者の健康管理等を行う医師。労働安全衛生法では、常時50人以上の従業員を使用する事業場では選任しなければならないと義務付けている。

三元触媒（P.10）…ガソリン車の排出ガスに含まれる有害物質（一酸化炭素〔CO〕、炭化水素〔HC〕、窒素酸化物〔NOx〕）を酸化・還元によって浄化する装置。

ダイバーシティ（P.2）…多様性。人種・国籍・性別・年齢などを問わず、多様な人材を活用すること。

地球温暖化（P.26）…大気中に熱を閉じ込め地表を温める効果のあるガス（温室効果ガス）が増加したことにより、地球の平均気温が上昇している現象。

ファブレス（P.2）…製造業でありながら設計・開発のみを行い、製造は協力会社など他社に委ねるビジネスモデルのこと。

リスクアセスメント（P.19）…職場に潜在する危険性や有害性を見つけ出し、それを評価して、除去・低減するための手法のこと。

リスクマネジメント（P.2）…企業経営において、事業に関連するさまざまなリスクを組織的に管理する活動。具体的には、リスクの発生を回避、もしくはリスク発生時の損失の低減を図ること。

BCP（P.28）…Business Continuity Planの略。企業などが大災害、大事故などの緊急事態に遭遇した場合においても一定のレベルで業務を継続する、または中断しても早期復旧を果たすための行動計画のこと。

CSR（P.2）…企業の社会的責任。Corporate Social Responsibilityの略。

CSR調達（P.2）…お取引先に対して、社会的責任行動に関する調達基準を提示し、それを遵守することを要請していく継続的な購買・調達活動。人権、労働条件、安全衛生に対する経営管理も対象にしている。

IR（P.15）…Investor Relationsの略で、投資家向け広報と訳される。経営、財務、業績の詳しい情報を発信する活動。

ISO14001（P.23）…環境マネジメントシステムに関する国際規格。本規格に沿ったシステムを構築した事業所は、外部機関から認証を受けることができる。

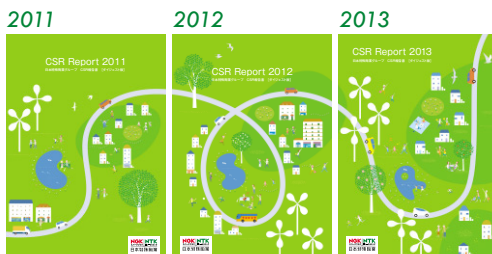
QCサークル活動（P.14）…QCとは、Quality Control（品質管理）の略。職場内で小人数のグループを作り、製品の品質管理や改善、不良品の低減、安全対策などに自発的に取り組むこと。

ROE（P.29）…企業の収益性を見る指標の一つ。自己資本がどれだけ効率的に使われているかを見るもので、ROEが高いほど収益力が高い。

SOFC（P.2）…固体酸化物形燃料電池。水素と酸素を反応させることにより電気と熱をつくる。

表紙のイラストについて

2011年に初めてCSR報告書を発行する際、その表紙で持続可能な社会を表したいと考えました。そこで、CSR報告書3冊にわたって、道がつながり、街が発展していく様子を表現することにしました。自動車、風力発電、家庭用燃料電池など、当社に関わる製品も登場しています。また、池の形はC・S・Rです。ぜひ3冊並べてご覧ください。



日本特殊陶業株式会社

〒467-8525 愛知県名古屋市長区高辻町14-18
<http://www.ngkntk.co.jp>

■お問い合わせ CSR推進室
TEL: 052-872-6248 FAX: 052-872-5999
e-mail: csr@mg.ngkntk.co.jp

■ 製作にあたって

本報告書を構成する資材(用紙、インキなど)の購入および製作に関わる編集、印刷は、ISO14001の認証を取得した会社で行いました。また、使用した資材(用紙、インキなど)は、カドミウム、鉛、六価クロム、水銀、ポリ臭化ジフェニル(PBB類)、ポリ臭化ジフェニルエーテル(PBDE類)を含有していません。

刷 版 … CTP(Computer To Plate)方式を採用しました。これによりフィルム、フィルム製作に伴う現像液、定着液が不要となり、省資源と廃棄物の発生を抑制しました。

インキ … VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロインキを使用し、VOCの発生を抑制しました。また、このインキは印刷インキ工業連合会の自主規制である「印刷インキに関する自主規制(NL規制)」にも準拠しています。

印 刷 … 湿し水を使用しない水なし印刷方式を採用しました。これにより、揮発性有機溶剤(インプロピルアルコール)は使用していません。

用 紙 … この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



【対 象 期 間】2012年4月1日から2013年3月31日
ただし、活動、事例等については、直近のものも含みます。

【対 象 組 織】

- 社会側面：日本特殊陶業株式会社
ただし、国内外子会社の活動等を含む場合があります。
その場合、個別に記載しています。
- 環境側面：日本特殊陶業グループ
・日本特殊陶業株式会社
・国内の子会社9社および関連会社1社

【発行責任者】代表取締役社長 尾堂真一

【編集責任者】CSR推進室長 齋飼床志

【発 行 時 期】2013年9月(次回2014年9月予定)



日本特殊陶業は、チャレンジ25キャンペーンに参加しています。

※ご不要となった際は、古紙リサイクルにお出しください。